



生協における 食品ロス削減の取り組み

日本生活協同組合連合会

組織推進本部 社会・地域活動推進部
サステナビリティ推進グループ

日本生活協同組合連合会（日本生協連）とは



- 概要： 日本生協連は、各地の生協や都道府県別・事業種別の生協連合会が加入する全国連合会。
- 設立年月日： 1951年（昭和26年）3月設立。
- 会員数： 314の生協・連合会が加入
- 事業高： 4,397億円



●主な事業と活動

1. 会員生協への商品供給などに関わる事業

- ① **コープ商品**などの開発と供給
- ② 通販事業
- ③ 商品事業に関わる品質管理、物流、情報システムなど**事業基盤の開発や運用**など

2. 生協の全国組織として取り組み

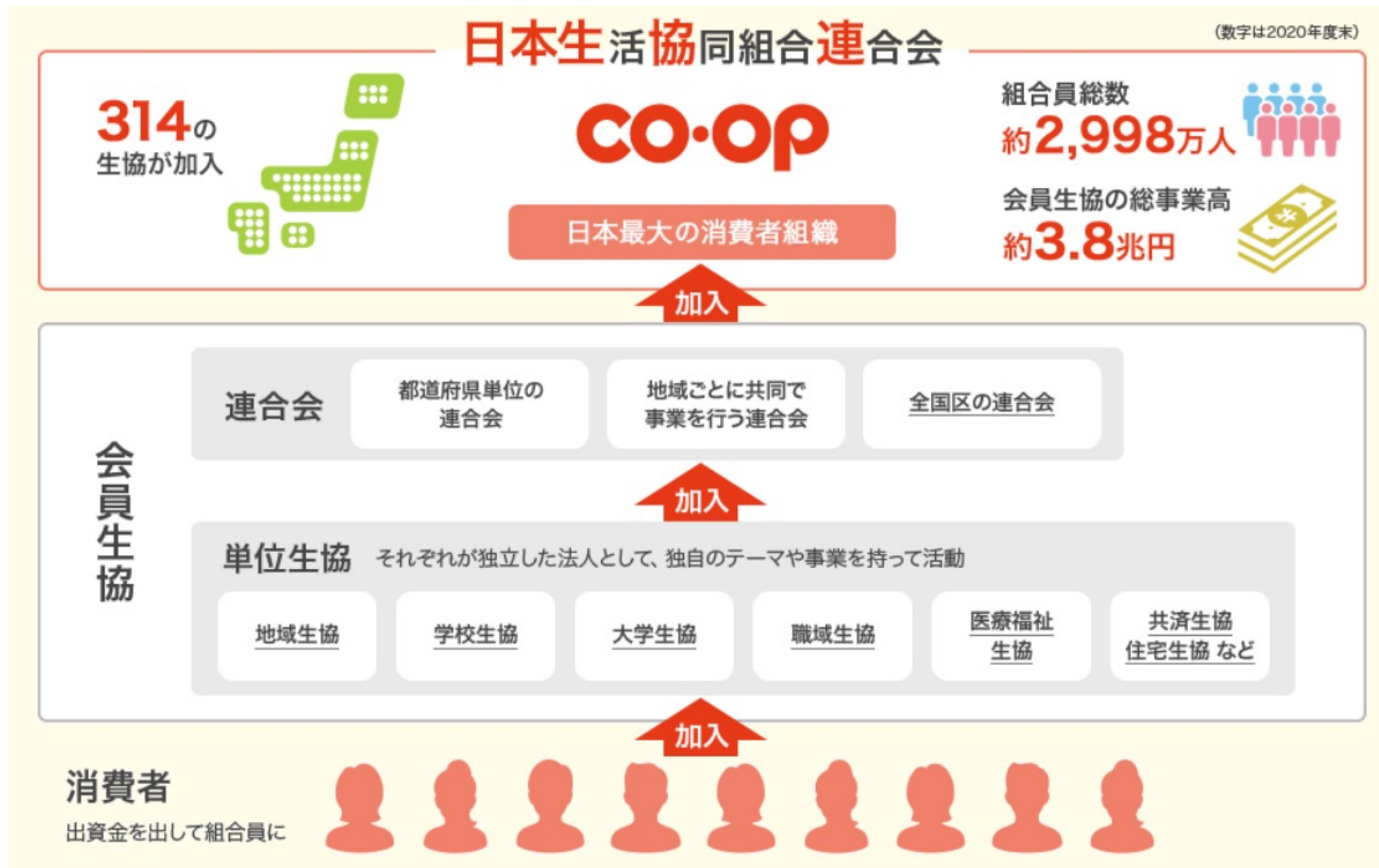
- ① 生協の**全国的な事業・活動方針策定**
- ② 国内・国外の**各種協同組合・諸団体・行政などとの連絡・調整**
- ③ 多様な生活に関わる**社会的テーマについての意見発信**など

3. 会員生協への支援の取り組み

- ① 連絡・調整・交流
- ② **各種事業や組合員活動への支援**
- ③ 会員生協の組織運営・法令順守支援



日本生協連と会員生協・組合員の関係図



● 生協の2030環境・サステナビリティ政策

＜政策のスローガン＞

- すべての人々が人間らしく生きられる豊かな地球を、未来のこどもたちへ

＜「10の行動指針」と「2030目標」＞

- 政策は、具体的なアクションプランである「10の行動指針」と、2030年にありたい姿をイメージしながら設定した「2030目標」によって構成されています。
- 食品廃棄物・食品ロス削減の行動指針は、「生協事業ならびに組合員家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます」と設定し、2030目標として「食品廃棄物50%削減（2018年比）」を定めています。



● 食品廃棄物・食品ロスに関する行動指針の目標・モニタリング指標

カテゴリー	10の行動指針	全国生協の2030目標	モニタリング指標、KPI
省資源・資源循環の取り組み	⑥生協事業ならびに組合員家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます	食品廃棄物を2030年に2018年度比で50%削減	✓ 食品廃棄物発生量 ✓ 食品リサイクル率

加工食品の納品期限の緩和



- 賞味期間の1／3以内で小売店舗に納品する慣例、いわゆる「1／3ルール」について、日本生協連から全国の会員生協に向けて、「CO・OP商品だけでなく、NB商品を含めて、賞味期間180日以上ドライ商品を対象とした入在庫期限基準の緩和（1／2化）」を呼びかけています。



生協名	対象商品	備考
みやぎ生協	清涼飲料、菓子(賞味期限180日以上)、カップ麺、袋めん、レトルト食品、調味料、スープ、缶詰、農産加工品、加工水産品、冷凍食品	組合員宅着時点での基準
コープこうべ	清涼飲料、菓子(賞味期限180日以上)、カップ麺、袋めん、レトルト食品、調味料、スープ、缶詰、農産加工品、加工水産品、冷凍食品	賞味期限180日以上の商品が対象
コープみらい	清涼飲料、菓子(賞味期限180日以上)、カップ麺、袋めん、レトルト食品、調味料、スープ、缶詰、農産加工品、加工水産品、冷凍食品	賞味期限180日以上の商品が対象
ユーコープ	清涼飲料、菓子(賞味期限180日以上)、カップ麺、袋めん、レトルト食品、調味料、スープ、缶詰、農産加工品、加工水産品、冷凍食品	
コープ九州事業連合	清涼飲料、菓子(賞味期限180日以上)、カップ麺、袋めん、レトルト食品、調味料、スープ、缶詰	組合員宅着時点での基準
おおさかパルコープ	清涼飲料、菓子(賞味期限180日以上)、カップ麺、袋めん、レトルト食品、調味料、スープ、缶詰、農産加工品、加工水産品、冷凍食品	組合員宅着時点での基準
コープさっぽろ	清涼飲料、菓子(賞味期限180日以上)、カップ麺、袋めん、レトルト食品、など加工食品全般	賞味期限60日以上の商品が対象

✓ コープこうべ

消費期限・賞味期限が近い商品の購入を促す取り組み。当初は神戸市内34店舗でスタートし、2019年には対象をコープこうべの全店の約160店舗に拡大。

● その他の取り組み

- ・需給予測高度化・適正発注
- ・店舗における陳列限界の見直し
- ・季節商品の予約販売
- ・販売時工夫（小分け・少量販売・値引き・ポイント付与）
- ・在庫数限りの抽選販売



地域生協の取り組み②リサイクル・ループの構築



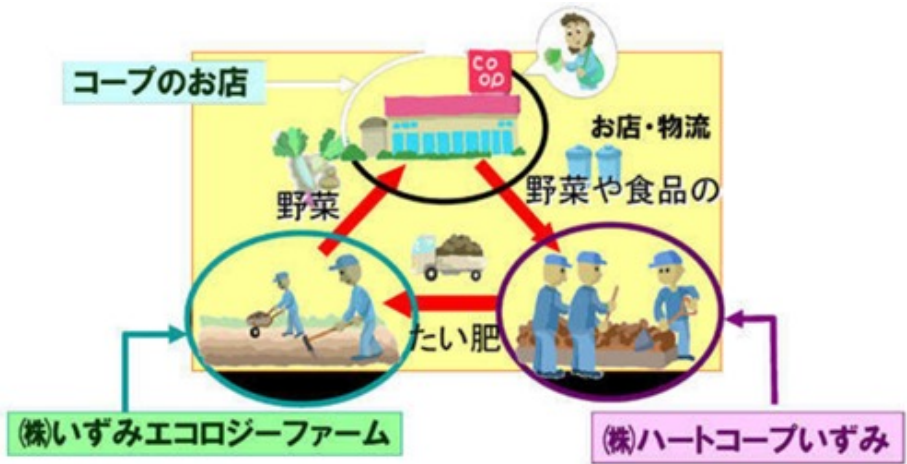
□ 堆肥化を軸とした食品リサイクルループ

✓ コープこうべ



出典：コープこうべHP

✓ 大阪いずみ市民生協



出典：大阪いずみ市民生協HP

✓ 福井県民生協



出典：福井県民生協資料

地域生協の取り組み③資源の有効利用



□ バイogas発電で食品リサイクル率97%
(コープこうべ六甲アイランド食品工場)



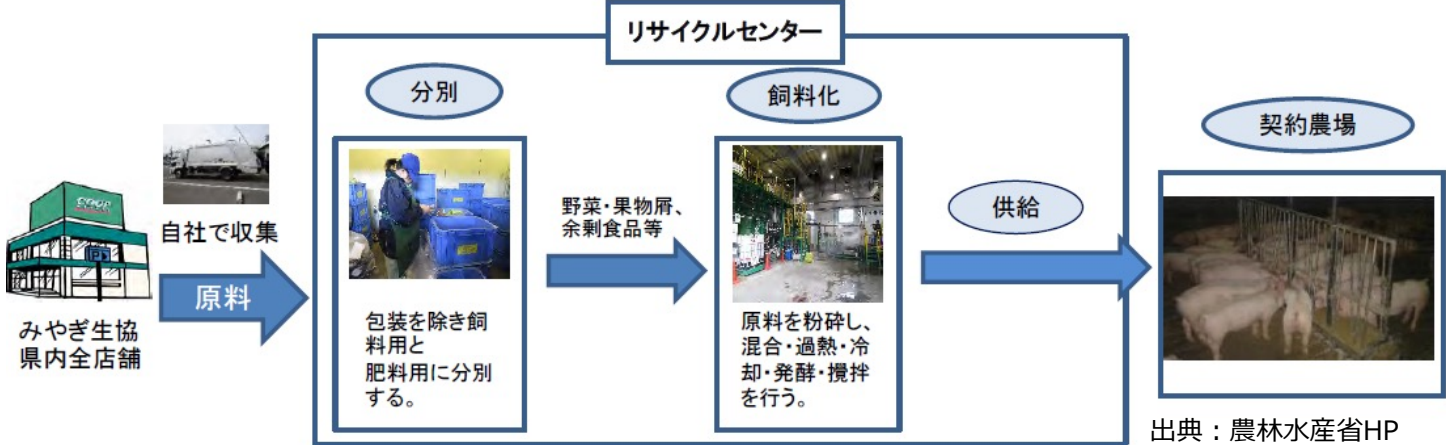
出典：コープこうべ

□ ニューエナジーふじみ野株式会社
バイオガス発電プラント
(コープみらい・コープデリ連合会)



出典：株式会社地球クラブ

□ エコフィード（液状化飼料）化を軸とした食品リサイクル（みやぎ生協）



出典：農林水産省HP

地域生協の取り組み④規格外品の供給



□ コープデリ連合会

・キズやサイズの違いによる規格外品、天候被害を受けたものなど、見た目は劣りますが、味に影響なくおいしい「産直農産物」を組合員に「訳を伝えて」供給し、生産物を無駄なく利用しています。



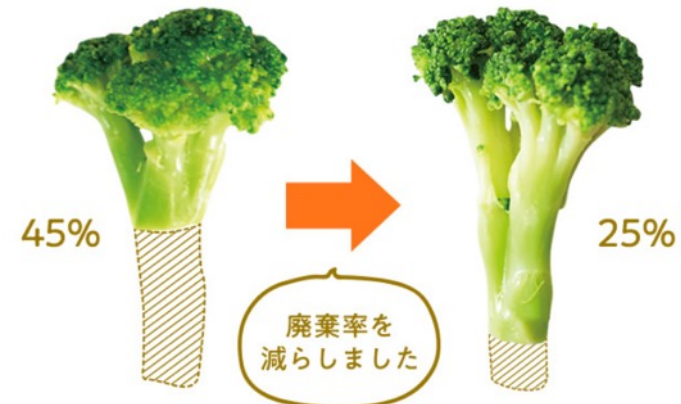
宅配カタログの掲載例

出典：コープデリ連合会HP

□ パルシステム連合会

・パルシステムでは、組合員と生産者の意見を取り入れた規格外農産物を活用する商品の開発、食品ロスを削減した商品利用の呼びかけを行っています。

・組合員の声から生まれたアイデアとして、ブロッコリーは形やサイズをそろえるために、通常は茎の部分を中心に1株当たり45%ほど切り捨てるところ、長めに残すことで廃棄率を25%まで抑えることができました。



出典：パルシステム連合会HP

ロ フードバンクとは

・安全に食べられるのに、様々な理由から販売ができない食品を、企業、個人などから寄贈してもらい、必要としている人や施設などに無償で提供する「フードバンク」の取り組みは多くの生協に広がり、下記のように生協自らが運営する事例も増えています。

● 生協が運営に関わるフードバンクの例



みやぎ生協が2012年に設立し、現在コープ東北サンネット事業連合が運営。



神奈川県下の複数生協等が2018年に設立

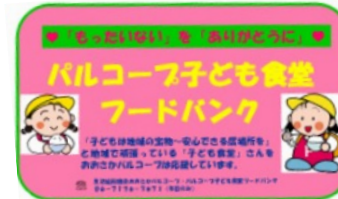


一般社団法人
福岡県フードバンク協議会
Fukuoka Food Bank Conference

エフコープが福岡県の外郭団体とともに2019年に設立



コープさっぽろが2016年に設立。



おおさかパルコープが2017年に設立。大阪府下で子ども食堂支援に特化。

● 全国の生協のフードドライブの取り組み状況の内訳（全国40生協の取り組み）

・家庭で余った食品等を寄付するフードドライブの取り組みは組合員の参加の下、全国の生協に広がっています。

全体箇所数	店舗数	宅配センター等	その他
529	386	123	・イベントでの回収 ・行政・大学等との連携 ・総代会での回収 等

出典：日本生活協同組合連合会2020年度調査より

地域生協の取り組み⑥組合員との学び・実践



- **コープこうべ：** 組合員が家庭で環境問題を学ぶツールを作成し、食品ロス削減のワークシートも盛り込まれています。



出典：コープこうべ資料

- **京都生協：** 生協の機関誌では組合員の生活にとって有益な情報発信をしています。最近では食品ロス問題に関する記事も増えています。



出典：京都生協HP

地域生協の取り組み⑥組合員との学び・実践（パルシステム）



- **パルシステム**：『まめパル』というアプリを開発し、パルシステムで注文した食材を、ムリなくムダなく楽しく管理できるようにしています。



- ・注文した食材が自動登録され、管理が簡単。
- ・「賞味・消費期限アラート」やPUSH通知で食品ロスを防止。



ダブリがないように、食材をチェックしてから買い物を。

（ヒント）食材管理アプリ「まめパル」



青果はもちろん、ふぞろい品などを加工した食品を選ぶのもエコ。

（ヒント）「もったいない」の声から生まれた商品



作りすぎないことも大切。余った食材は次の日の一品に。

（ヒント）だいたいこログ*余った食材でミニレシビ*



野菜の葉や茎など食べられるところはまるごと調理。有機コア・フードならより安心。

（ヒント）KOKOCARA「オーガニックごはん」



ほんのひと手間でおいしさ長もち。食材に合った方法を活用しよう。

（ヒント）だいたいこログ「野菜のおいしい保存&活用テク」



✓ オンラインでの学びの機会（WEB交流フェスタ）

- 様々な組合員の取り組みの中で食品ロスを取り上げる例が複数ありました。
- 1つの動画では、家庭から出る食品ロスとして、そのまま捨てられるもの、食べ残し、そして、野菜の皮などを余分に剥いて捨ててしまう「過剰除去」について、日頃の調理から食べ物の「もったいない」を考えました。



2021年度の進捗（2020年度実績）



分類	10の行動指針	全国の生協の目標
省資源・資源循環の取り組み	⑥生協事業ならびに組合員家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます	食品廃棄物を2030年に2018年度比で50%削減

- 食品リサイクル法に基づく定期報告を提出している生協のうち33生協の合計では、食品廃棄物の処分量（2020年度）は2018年度比（総量比較）で1%増加しました。
- 一方、単位供給高あたりの36生協の合計による2018年度比（供給高1億円あたりの食品廃棄物量）では27%減少しました。
- また、食品リサイクル率は78%でした。

